



2020 年 6 月 2 日

各 位

会 社 名 テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社
代表者名 代表取締役社長 城谷 直彦
(コード番号:7046 東証マザーズ)
問合せ先 取締役執行役員専務 浦川 健
(TEL.03-6383-3261)

＜マザーズ＞ 2020 年 3 月期 投資に関する説明会開催状況について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大による状況を踏まえ、ご参加いただく皆さま方および関係者の安全を第一と考え、2020 年 6 月上旬に予定しておりました投資に関する説明会の対面による開催に代え、以下のとおり、動画配信の方法にて投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時	2020 年 6 月 2 日（火） 15 : 00（動画公開日時）
開催方法	インターネットを利用した動画配信
動画掲載場所	当社ウェブサイト（IR 情報） https://www.tdse.jp/ir/ (YouTube でもご覧いただけます https://www.youtube.com/watch?v=rn_the3qxzY&feature=youtu.be)
発表者	代表取締役社長 城谷 直彦
説明内容	2019 年度の決算概要 成長戦略の取組状況と計画 2020 年度の業績予想および取組
説明会資料名	「2019 年度 決算説明会資料」

* 本件に関する問い合わせ

テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 IR 担当

TEL : 03-6383-3261 MAIL : investors@tdse.jp

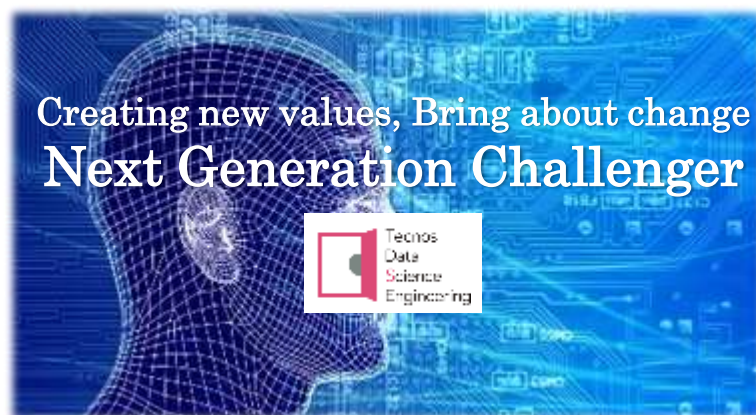
- ・ メールでご連絡いただく場合は、お手数ですが、企業名・お名前・お役職・お電話番号・ご用件を記載のうえ、送信いただきますようお願いいたします。
- ・ 新型コロナウイルス感染防止も兼ねて、WEB 会議についても対応いたします。

【添付資料】

投資説明会において使用した資料

以 上

※ この書面（添付資料を含む）は、有価証券上場規程施行規則第 427 条に基づき、公衆縦覧されます。



テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社
(東証マザーズ：7046)

2019年度決算説明会資料

2020年6月2日

1

経営ビジョン

当社は、「新しい価値を創造し、変化をもたらす次世代のチャレンジャー」を経営ビジョンとして、絶えず時代の先端を捉え、新しいパラダイムを創り出す熱意を持ち続けます。

新しい価値を創造し、変化をもたらす次世代のチャレンジャー

Creating new values, Bring about change
**Next Generation
Challenger**

2

代表からの挨拶

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 3

3

現在、世界の多くの国で、多くの人々が新型コロナウイルスの猛威に苛まれております。感染された方々にお見舞いを申し上げますとともに、不幸にもお亡くなりになった方々に心よりお悔やみを申し上げます。また、世界各地でこの前例のない災禍に立ち向かい、医療をはじめあらゆる場面で治療や感染の予防、社会システムの維持などに奮闘努力されている方々に、感謝と称賛の意を表します。

今回のウイルスの感染拡大等により、経済活動にも大きな影響を受けましたが、当社は適切なリスクコントロールや生産性向上に向けた取り組みにより、直接的な影響は限定的と考えています。今後の経済動向は決して楽観視できないことから、引き続きその動きを注視し、企業として堅実な経営を継続していきます。

当社は、国内最高峰のデータサイエンティストを中心にAI技術を用いた事業を通じて、より良い社会作りのために企業を支えてきました。未曾有の世界的危機に直面している今こそ、当社では人々が寄り添えるよう社会に貢献する事業者としての使命を果たしていきたいと考えております。

また、新型コロナウイルスに伴う災禍の後には、パラダイムシフトが起こり、新しい時代が到来すると考えられます。新たな時代を切り拓いていくにあたって、『**新しい価値を創造するNext Generation Challenger**』は、私たちが大切にしていくな変のビジョンであり、来るべき時代を牽引していくためにも、当社社員のアイデア、AI技術を活かし、社会に貢献できる企業として、事業を推進してまいります。

代表取締役社長 城谷直彦

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 4

4

新型コロナウイルスの影響による当社対応

企業としての取組

社会の一員として、お客様と役職員の安全を確保し、事業継続を目指す

- 日本政府による緊急事態宣言が発令される前より、お客様及び社員の新型コロナウイルス感染防止につながるよう、テレワークによる活動や対面会議の自粛、全社員在宅勤務の対策などを実施しております。現在、収束の方向に向かっているものの、引き続き社会の一員として感染拡大防止にむけた政府、自治体の動きに協力していきます。

経営としての対応

経営として顧客との接点を大事にし、事業運営を強化します

- 社会課題を解決する顧客の役割、ニーズを理解し、顧客企業とは長期的関係を構築し、成長をしっかりと支えていきます。
- 生産性の高いプロジェクト、オペレーションを実現していくため、柔軟な人材配置を実行します。
- 現在、経済の回復局面を迎える各領域の需要特性に合わせ、コンサルティングおよび A I 製品開発等のサービス拡充を図り、新規獲得にむけた本格的な再開準備をすすめています。

新型コロナウイルスの影響による当社対応

経営としての当面の対応

即効性のある収支改善策を実行し、財務体質を強化します。

- コスト構造の見直しを進めます。具体的にIT投資の縮小など設備投資の抑制、AIシステム開発における外部委託の削減、管理運営費の効率化を行います。
- 経営として優先すべき課題として、手元流動性の着実な確保を行います。

事業計画について

新型コロナの影響を受けつつも、創業以来最高の売上、利益を目指します。

- 2020年度の見通しは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を踏まえたものにする必要がありますが、現時点でその影響を過不足なく見積もるための情報が揃っておりません。従って、当社では緊急事態宣言が本年5月下旬まで続き、経済回復にある程度時間を要する前提で作成しています。
- 現時点において入手可能な情報からの判断及び想定に基づく見通しとしているため、実際の業績は外部環境の変動等により変わりうることもあるため、今後再算定の可能性もある点あらかじめご了承ください。

新型コロナウイルスの影響による当社対応

企業の業務改革を支援するサービス

経営方針【3C+C】にある本業を通じて社会に貢献するため、当社にできることを実行します

- 現在、未曾有の世界的危機に直面している今こそ、当社では社会の一員として事業者として使命を果たしていきたいと思います。そのため、当社の保有するAI技術を活かせるような様々な検討を進めてきました。

検討領域及びサービスは以下となります。

- 医療機関向け A I による診療受付業務の自動化、症状や病状のAI簡易診断サービス
 - 採用業務の一段の効率化を進めるため、学生とのコミュニケーションの A I による自動化
 - 企業での多様な働き方に対応するため、E ラーニングによる A I 教育サービスの提供
 - 飲食店事業者向けにテイクアウト予約を自動化する A I サービスの提供
 - 物流業者向けに再配達によるやり取りを自動化する A I サービスの提供
- その他、EC業界、教育業界、医療業界向けなど、業務ニーズに沿ったソリューションを展開予定

多くの業界で、新型コロナウイルスの影響により露呈した社会共通の課題を解決するソリューションが進むと考えます。当社もアフターコロナを見据え、A I を活用した省力化、5 G によるデジタルデータの活用、リモートワークスタイルに適用できるサービスの提供など新たなサービスを検討していきます。

アジェンダ

- 2019年度業績
 - ・決算サマリー
 - ・主要業績と各種売上分布
 - ・取組結果、トピックス
- 株主還元
- 2020年度取組および事業計画
 - ・市場動向と目指す企業像
 - ・新型コロナウイルスへの対応
 - ・2020年度事業計画
- 今後の事業構想
- 投資家へのメッセージ
- Appendix

2019年度業績

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved



Page 9

9

決算説明サマリー

業績について

- 新型コロナウイルスによる業績への影響は一部であったものの、高度なAI技術を武器として、事業運営を行い、売上高は創業以来最高を達成。
- 営業利益は、成長戦略加速にむけた大規模な投資の影響による減益を予想していたが、プロジェクト生産性を高めた結果、当初予想より大幅に上回る。

成長戦略実行について

- サブスクリプションサービス拡充にむけて研究開発は順調に推移。今後、サービス開発事業はマーケット調査、実現可能性を検証のうえ、実行する。当社が強化していく領域で活かすソリューションとして展開を計画。
- 当社技術ノウハウを活用し、新型コロナ対策にむけた企業・団体への活動支援を実施（新サービス企画、業務支援）。

株主還元について

- 事業活動を通じて創出した利益は、中長期に亘る企業価値の向上にむけた成長投資や経営基盤強化のための内部留保に配慮しつつ、株主価値向上に努めていく。株主還元を重要する方針から、当期期末配当金支払いを実施。

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 10

10

2019年度主要業績

- ▶ 売上高は、事業計画（10月24日発表）よりも若干下回ったものの創業以来最高を達成。営業利益は、成長戦略加速にむけた大規模な投資による影響が予想されたが、プロジェクト生産性を高めた結果、計画より大幅に上回る。

売上高	13.77億円(対前年比102%)
営業利益	1.26億円(対前年比65%)

		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	(単位：百万円)
		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
主要指標	売上高	0.6	312	508	818	1,018	1,351	1,377	売上高について
	対前年比	—	52164%	162%	161%	124%	133%	102%	
	営業利益	△21	20	39	109	57	195	126	営業利益について
	対前年比	—	黒字転換	193%	278%	52%	339%	65%	
	利益率	—	6.5%	7.8%	13.4%	5.7%	14.4%	9.2%	成長戦略遂行のため、大幅な投資を実行するため、2019年10月24日発表の事業計画は 79百万円 の営業利益としたが、プロジェクト効率化を進め、経費圧縮を進めたところ、計画比159%の 126百万円 を達成。
	経常利益	△21	23	46	110	103	212	127	
	対前年比	—	黒字転換	193.40%	239.50%	93%	205%	60%	
	利益率	—	7.6%	9.1%	13.5%	10.1%	15.7%	9.2%	
	当期純利益	△13	14	30	78	75	146	90	
	対前年比	—	黒字転換	206%	255%	95%	195%	62%	
	利益率	—	4.8%	6.1%	9.6%	7.4%	10.8%	6.5%	

11

2019年度売上分布①

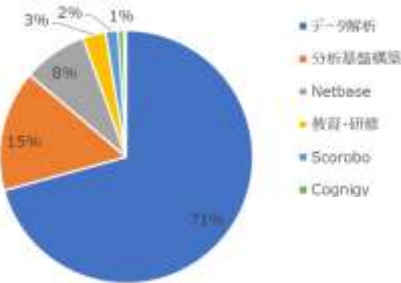
- ▶ 業種内訳は、サービス業、金融業を中心に幅広い業界で企業のデータ経営を支援。
- ▶ サービス内訳は、データ解析が売上の大半であるが、分析基盤構築・教育サービス等の占有率が高まっている。

業種内訳



業種	売上高	占率
サービス業	469.2	34%
金融業	438.5	32%
製造業	245.9	18%
IT企業	153.1	11%
社会インフラ・官庁	63.5	5%

サービス内訳



サービス	売上	占率
データ解析	974.0	70.7%
分析基盤構築	213.1	15.5%
Netbase	113.7	8.3%
教育・研修	40.2	2.9%
Scorobo	22.1	1.6%
Cognigy	9.7	0.7%

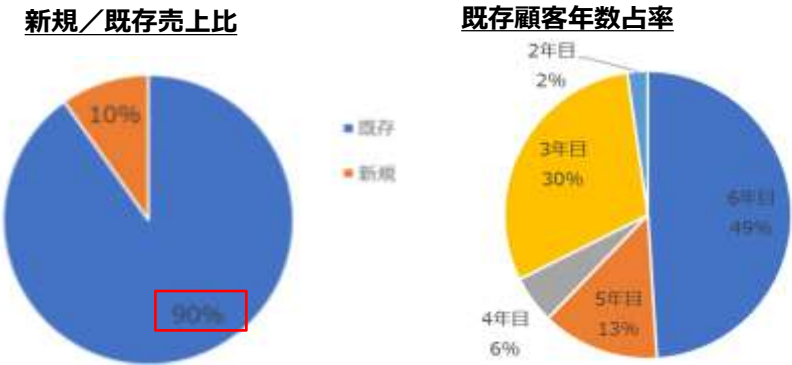
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 12

12

2019年度売上分布②

- 既存顧客の占率は約9割、なかでも3年以上継続している企業が売上の大半を占める。
経営層やAI事業推進者とのビジョン構築も含めたデータ経営支援ビジネスの性質上、
中長期の関係継続となる顧客が多い。AIプロジェクトは短期間で終了することは少ない。



2019年度売上分布③

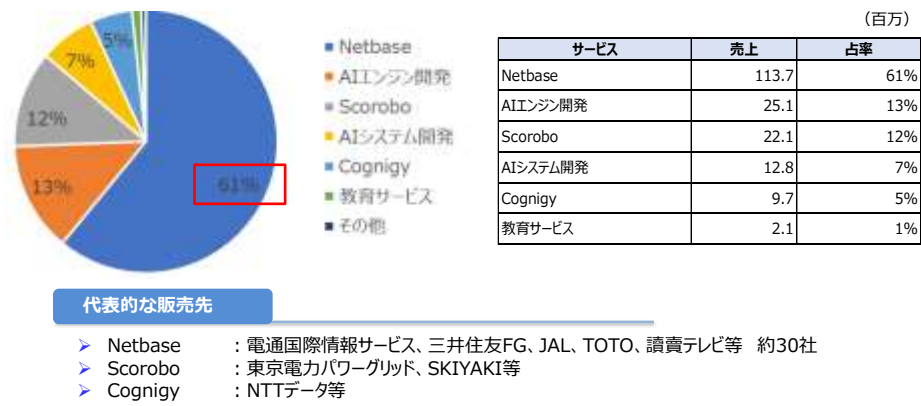
- ビジネス上流におけるデータ経営支援案件が多く、フロー型ビジネスの占率が8割強となっている。
- Netbase・scorobo等のストックサービス展開も進み、ストック型サービス占率は14%（昨年度 7%）、売上成長率も約200%となる。



2019年度ストック売上内訳

- スtock売上高が1.8億円に到達し、成長戦略の取組が徐々に表れている。
- Netbaseは、売上1億円を超過。電通国際情報サービス（ISID）との代理店政策の効果あり。

ストック売上内訳について



2019年度取組

当社事業戦略スキーム



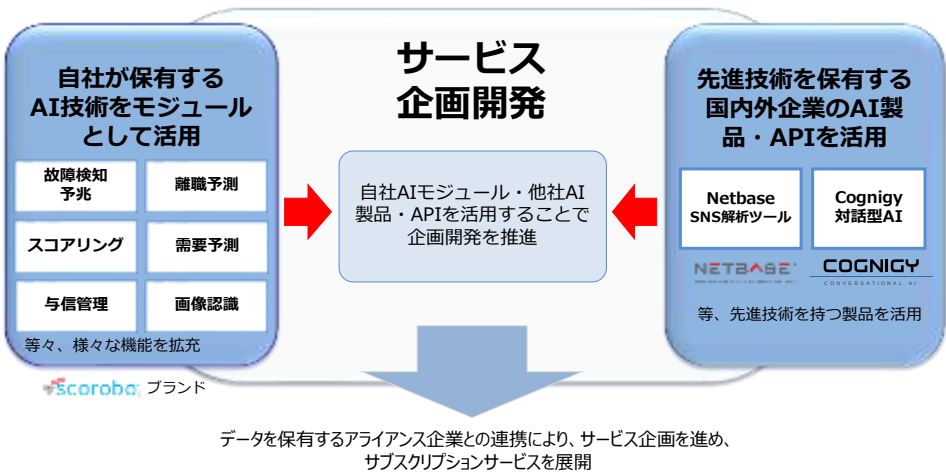
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 17

17

サービス開発の強化について

- サービス開発案件はマーケット環境／技術の優劣／競合製品／必要時間を精査した上で、総合的に判断。
- 強化すべき領域で活かすソリューションとして、データを保有するアライアンス企業との連携も含めて展開。
- 複数プロジェクトを実行し、随時進捗を確認。実現可能性・将来性を精査し、継続是非を判断。



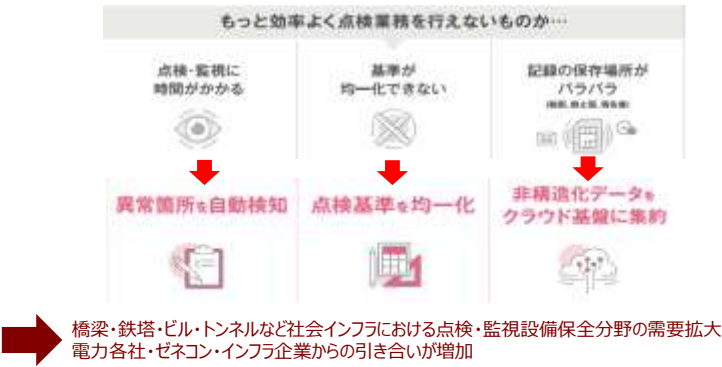
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 18

18

2019年度のトピックス（AIサービス開発）

- 社会インフラ領域 scorobo
- 東京電力パワーグリッドと共同開発した架空送電線診断システムの中核部分である映像解析エンジン「scorobo for Infrastructure」を活用し、社会インフラ領域向け劣化検知ソリューションを提供（2019年6月）



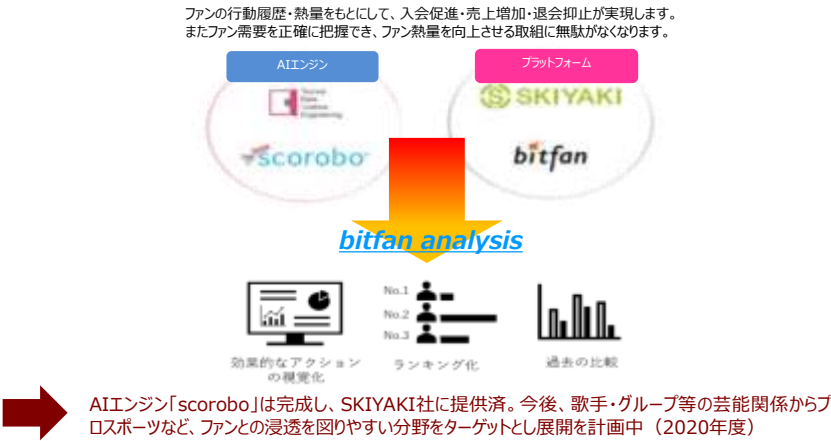
【参考】社会インフラ領域におけるAI市場拡大予測について

年度	2018 年見込み	2022 年予測	2030 年予測
規模	300 億弱	800 億弱	1600 億強

(財)富士キメラ総研[2019 人工知能ビジネス国内市場予測]（2019年3月公表）
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

2019年度のトピックス（AIサービス開発）

- デジタルマーケティング領域 scorobo SKIYAKI
- 総会員数300万人※が属するファンサイト運営企業SKIYAKIと業務提携、エンタメ業界初「bitfan-analysis」に活かす専用AIエンジン「scorobo」を開発 ※SKIYAKI社2020年3月発表



2019年度のトピックス（AIサービス開発）

- 人事領域

scorobo
- 数多くの人事系プロジェクトの経験から生まれた「scorobo for HRtech」を活用し、新卒採用・離職抑制・ハラスメント予測等に役立つ人事領域向けソリューション『HIT※』を提供（2019年7月～）
※HIT：Human-Innovation Technology powered by scoroboの略称



- 業界大手数社に対し、モデル実施中。人事系業務をAI技術を活用することで高度化・効率化させるニーズは高く、既存客に対するクロスアップセルおよび人事戦略コンサルとの協業を通じ、サービス展開を実施（2020年度）

2019年度のトピックス（AIサービス開発）

- 金融領域

scorobo

SBI証券
- SBI証券株式会社とフィンテック領域での業務提携、scoroboエンジンを活用して、AI型投資スコアサービスの共同開発を進め、キャンペーン施策を実施（2020年上半期）
- 全領域対応

COGNIGY
CONVERSATIONAL AI

Google Cloud
- 対話型AI製品Cognigyを活用し、開発時間の短縮・運用の効率化を目的として、Google Cloudに独自のPaaS型プラットフォームを開発（2019年度下半期）。今後はこのプラットフォームを活用することで様々な業務シーンで活用される複数サービスを開発・展開し、サブスクリプションサービスの拡販を進める。
- SNS分析サービス

NETBASE
ENTERPRISE SOCIAL ANALYTICS
- 日本経済新聞系列の日経CNBCに対し、2018年11月6日米国大統領中間選挙や2018年5月9日場中に発表されたトヨタ決算特集番組にてSNS分析AIサービスを生放送で活用。その後、1年間に渡り、ニュース番組「トレンドアイ」にてAIサービスを提供（2019年1～12月）。
 - 上記取組を通じ、企業が注目したい、興味あるテーマを登録し、ソーシャルメディアで得られる消費者の声や傾向分析を常にモニタリング（AIによる分析機能を標準搭載）できる「SNSリアルタイムモニタリングサービス」を提供開始（2020年1月～）

2019年度トピックス（共創ネットワーク強化）

- 製品サービスに競争力が高く、成長が期待できる企業や、当社と大きなシナジーが生まれる可能性のある企業・団体と連携

電通国際情報サービス



- デジタルマーケティング分野で豊富な顧客層を持つ電通国際情報サービスとNetbaseビジネスのパートナーとして協業しており、業績貢献度が大幅に拡大

日本マイクロソフト



- Microsoft Partner Network for Industryへ参画し、金融・医療・製造・物流の4領域におけるAIソリューションの共同展開を計画（2019年6月～）

NTTデータ



- 資本業務提携関係のあるNTTデータとの連携強化
AI製品Cognigyの社内利用展開（2019年度下半期～）

WASEDA NEO



- 早稲田大学の社会人教育プログラムWASEDA-NEOにAIビジネスマネージャとAIエンジニア講座を提供。受講生からの高い評価であったことから、継続提供（新型コロナ影響により、2020年下半期予定）

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 23

23

株主還元

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 24

24

2019年度株主還元

- 当社は、事業活動を通じて創出した利益を株主の皆様へ還元することを経営の最重要課題のひとつと位置付けており、中長期に亘る企業価値の向上にむけた成長投資や経営基盤強化のための内部留保に配慮しつつ、株主価値向上に努めております。
- 今年度は、新型コロナウイルスの影響により、経済活動の見通しが不透明であるものの、株主還元の重要性から、当期期末配当金は、昨年同額の10円とします。

年度	2017年度	2018年度	2019年度
期末配当	5円	10円	10円
普通配当	5円	5円	10円
記念配当	なし	5円	なし

配当性向は、22.7%を確保

* 配当性向 (%) = 配当金額 / 当期純利益 × 100 (%)

市場動向

AIビジネス市場について

- 企業のIT投資は新型コロナの短期的な影響は受けるものの、この事態で露呈した社会共通の課題を解決するには、ITやAIの技術要素活用が大きく期待されると考えられる。
- AI関連技術はITにおける要素技術の一つとして様々なシステムに組み込まれると見られ、サービス市場が急成長すると予測。
 - ユーザーによってAIに求める要件・ニーズが異なるため、個別構築するケースが多く、分析サービスではなく、AI構築サービスの比率が向上。
 - 構築したAI環境のライフサイクルを長期的にサポートするため、運用・保守比率が上昇する予想。

約2倍（対2017年度）

サービス概要		2017年度実績		2022年度予測		2030年度予測	
		金額	占率	金額	占率	金額	占率
サービス市場		236	60.2%	665	55.0%	1,145	53.8%
分析サービス（得意とする領域）		3	0.8%	5	0.4%	6	0.3%
構築サービス（強化すべき領域）		233	59.4%	660	54.5%	1,139	53.5%
アプリケーション市場		67	27.7%	236	35.5%	426	20.0%
プラットフォーム市場		89	37.5%	310	46.5%	558	26.2%
合 計		392	100.0%	1,211	100.0%	2,129	100.0%

78倍

132倍

190倍

約5倍（対2017年度）

(単位：十億円)

出典：株式会社富士キメラ総研「2019 人工知能ビジネス総調査」（2019年3月公表）

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 27

27

TDSEが目指す企業像

**A Iを中心とした
統合型ソリューション企業**
AI oriented & integrated solutions company

将来AIビジネス市場を見据え、TDSEは常に変化を続ける

我々は、サブスクリプションサービス拡大も含め、
AIを中心とした統合型ソリューション企業への変貌を遂げる。

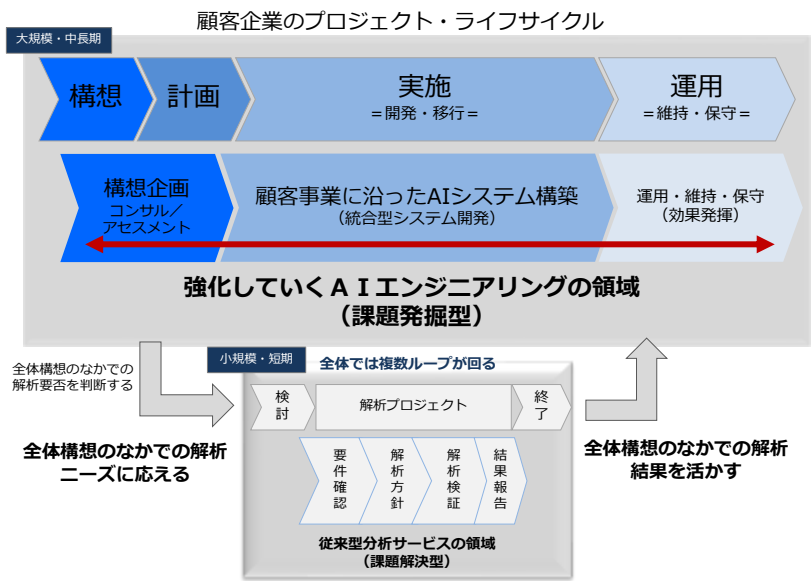
Change! Challenge!

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 28

28

TDSEビジネス領域（プロジェクトライフサイクル）



Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 29

29

2020年度取組/事業計画

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 30

30

2020年度の考え方

考え方

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による先行き不透明感により、国内外の経営環境は厳しさを増していくことが懸念される。一方、情報サービス産業においては、企業のIT投資意欲に短期的な影響を受けるものの、新型コロナウイルスの影響により露呈した社会共通の課題を解決するには、ITやAIの技術要素活用が大きく期待されることから、中長期的な投資は依然として強いものと思われる。
- 当社は、ワークスタイルが多様化した企業や、顧客獲得にむけて変化が求められる企業に対し、AIを活用したサービスを展開していく。対話型AI製品『Cognigy』を活用した医療・物流・飲食・教育分野などの業務シーンに適応した新サービスを提供する。また、AI人材育成分野では、リモートワークなど多様な就業環境に対応できるようe-ラーニング方式による学習メニューを立ち上げるなど、サービス充実を図る。また、アフターコロナを見据えた海外AI製品の開拓を継続しており、サービスの早期立ち上げを目指す。
- 企業の経営環境悪化により、開発予定であったプロジェクトが一部延期または中断になるなど、当社も影響を受けているが、顧客企業とは長期的関係を構築し、生産性の高いプロジェクト、柔軟な人材配置を実行し、オペレーションを実現していく。
- 現状、経済の回復局面を迎える各領域の需要特性に合わせ、コンサルティングおよびAI製品開発等のサービス拡充を図り、新規獲得にむけた本格的な再開準備を進めている。『AIを中心とした統合型ソリューション企業』を目指していくため、業務提携など他企業とのアライアンスを推進する。

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 31

2020年度After& Withコロナにむけた対応（一部紹介）

新型コロナウイルス対応にむけた対話型AI『Cognigy』によるサービス

COGNIGY

- 新型コロナウイルスの影響によりワークスタイルが多様化した企業や、顧客獲得にむけて変化が求められる企業に対し、当社のAI技術を活用したサービス開発を進める。
- 対話型AI製品Cognigyを活用したサービスとして、「医療機関向けオンライン問診用ボット」、「採用会社案内ボット」の提供を始め、今後、飲食・物流・EC・教育分野など、業務ニーズに沿ったサービスを展開予定。



Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

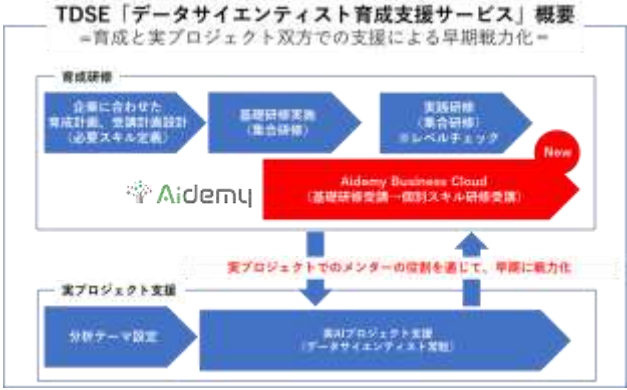
Page 32

2020年度After& Withコロナにむけた対応（一部紹介）

教育メニューに豊富なEラーニングコンテンツを追加



- 東大発ベンチャー企業アイデミーとAI人材教育分野で業務提携（2020年4月）
- リモートワークなどの就業環境の多様化、学習スタイルの変化に伴う企業ニーズなど幅広い要件を満たすため、教育ラインナップに、Eラーニング「Aidemy Business Cloud」を加える
- 在宅勤務の拡がりをみせていることから、デジタル形式の企業向けAI教育サービスを推進。あいおいニッセイ同和損保が顧客第1号としてサービス導入（2020年5月）



※ TDSEが提供するデータサイエンティスト育成支援サービスメニューの「データサイエンティスト育成講座」は、経済産業省が認定する「第四次産業革命スキル習得講座」に認定されています。

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

2020年度事業計画について

- 新型コロナウイルス感染防止にむけた経済活動の影響はあるものの、フロービジネスへの人員シフトとストック売上につながるサービスラインナップの拡充で売上高は増加し、売上高・営業利益とも、創業以来最高、また売上高は8期連続増収となる予想。

2020年度事業計画

売上高 16億円(対前年比116%)
営業利益 2億円(対前年比158%)

(単位：千円)

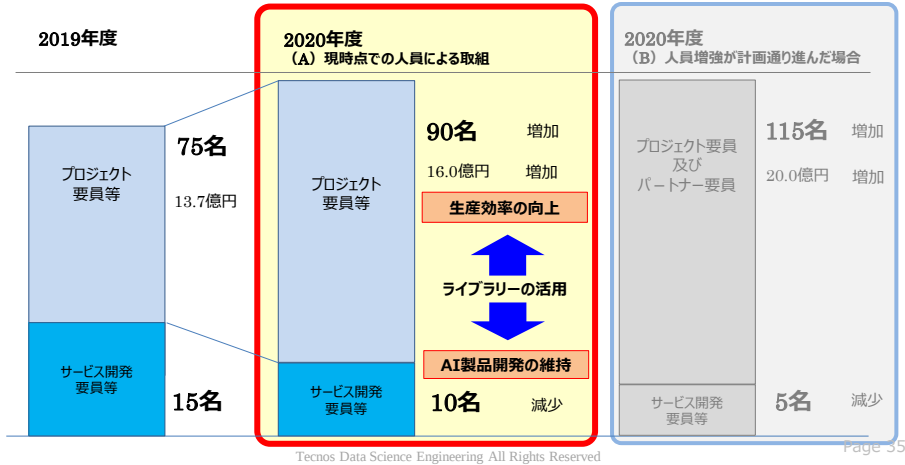
	2018年度実績		2019年度実績			2020年度予想		
		利益率		対前年	利益率		対前年	利益率
売上高	1,351,730	—	1,377,117	101.9%	—	1,600,000	▲ 116.2%	—
営業利益	195,135	14.4%	126,179	64.7%	9.2%	200,000	▲ 158.5%	12.5%
経常利益	212,024	15.7%	127,706	60.2%	9.3%	215,000	▲ 168.5%	13.4%
当期純利益	146,283	10.8%	90,370	61.8%	6.6%	149,000	▲ 165.2%	9.3%

- 事業計画の経過について
新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言による経済への影響を踏まえ、保守的に見直しを行っている。
 - 中期経営計画での計画：売上高 2,000百万円、営業利益 300百万円
 - 2020年3月時点での計画：売上高 1,800百万円、営業利益 300百万円
 - 2020年5月時点での計画：売上高 1,600百万円、営業利益 200百万円

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

AI人材ポートフォリオと売上高に関する考え方（概算）

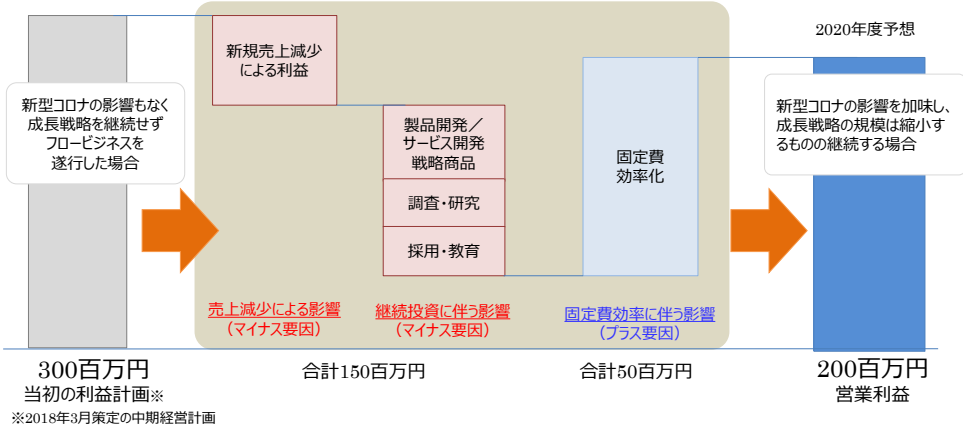
- 2020年度は、フロービジネスを強化するため、AI人材のポートフォリオを変更
- 新型コロナウイルス影響による需要回復には一定程度の期間が必要であること、およびパートナーを含めたコンサルタント増強を抑制したことから、当初策定した中期経営計画である売上高20億円（B）から、保守的なながらも16億円（A）と想定する。
 - サービス開発要員は、2019年度の15名から10名とし、ライブラリー強化による生産性ツールの構築、アフターコロナ対応にむけたサービス開発を推進する。プロジェクト要員は、75名から90名と増強させ、ライブラリー強化を通じて得られた生産性向上ツールを活用し、プロジェクトの効率を高める。



35

コスト算定と利益に関する考え方（概算）

- 成長戦略の継続実行に伴い、投資枠を確保する一方、コストコントロールによる固定費の効率化を実施
- 新型コロナウイルスの影響をうけた新規売上の影響により、利益幅が減少。
 - 成長戦略の継続実行に伴う戦略投資は当初よりも増加。
 - 即効性ある収支改善策を実行し、固定費効率化を進める。



36

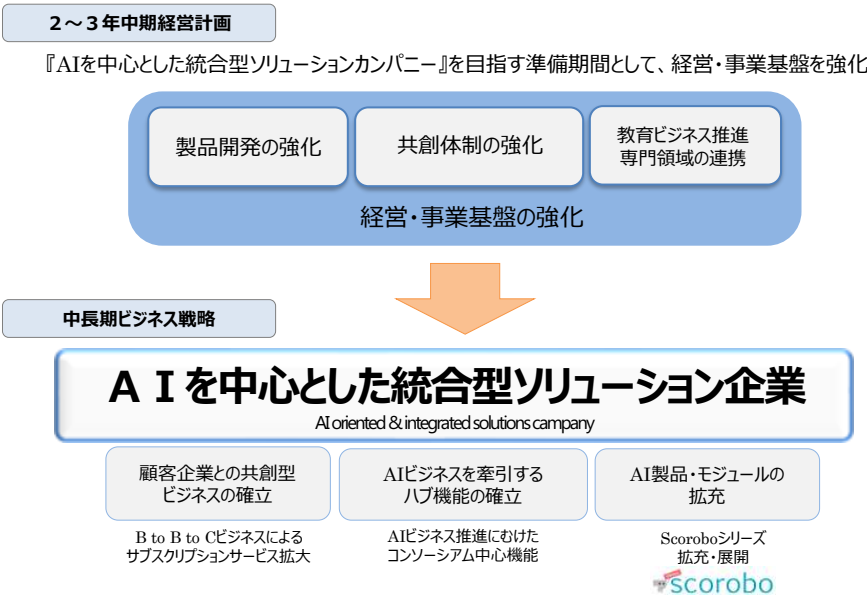
2018～2020年度3カ年中期経営計画（変更）

		中期経営計画			
		第5期 2017年度	第6期 2018年度	第7期 2019年度	第8期 2020年度
経営指標	売上高 (構成比)	10.18億円 フロー 9.6億 (94%) ストック 0.6億 (6%)	13.50億円 フロー 12.8億 (93%) ストック 0.7億 (7%)	13.77億円 フロー 11.9億 (86%) ストック 1.8億 (14%)	16.00億円 フロー 13.5億 (85%) ストック 2.5億 (15%)
	営業利益	0.57億円	1.95億円	1.26億円	2.00億円
・顧客 業界攻略 営業戦略		顧客層拡大にむけたサービスの充実とマーケティング取組み			
		72社	80社	90社	100社程度
・社員 人員確保 採用計画 研究開発		先進技術の獲得と組織生産性向上に繋げる人員確保と育成			
		総計80名 データサイエンティスト 60名 エンジニア 10名	総計100名 データサイエンティスト 67名 エンジニア 12名	総計110名 データサイエンティスト 75名 エンジニア 15名	総計130名 データサイエンティスト 80名 + α エンジニア 20名 + α
・企業 戦略投資 製品計画 AIモジュール含		企業価値を高める戦略投資と、サブスクリプションサービス展開にむけた研究開発			
		0.4億円	0.4億円	1.0億円	1.0億円

※ストック型にはscorobo・NETBASE・COGNIGY導入に伴う初期設定フィー、またAZURE・AWS等プラットフォーム利用料を含める。
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

今後の事業構想

中長期ビジネス戦略



Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 39

39

共創体制の強化

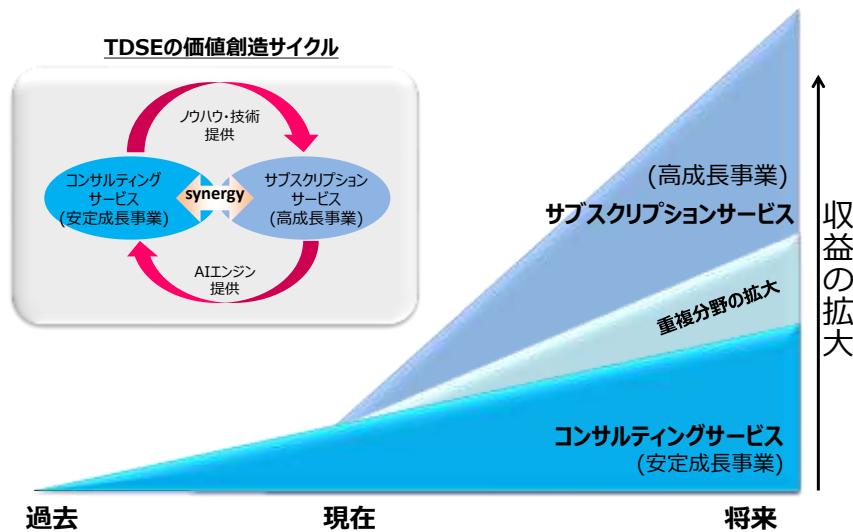


Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 40

40

今後の収益拡大イメージ



Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

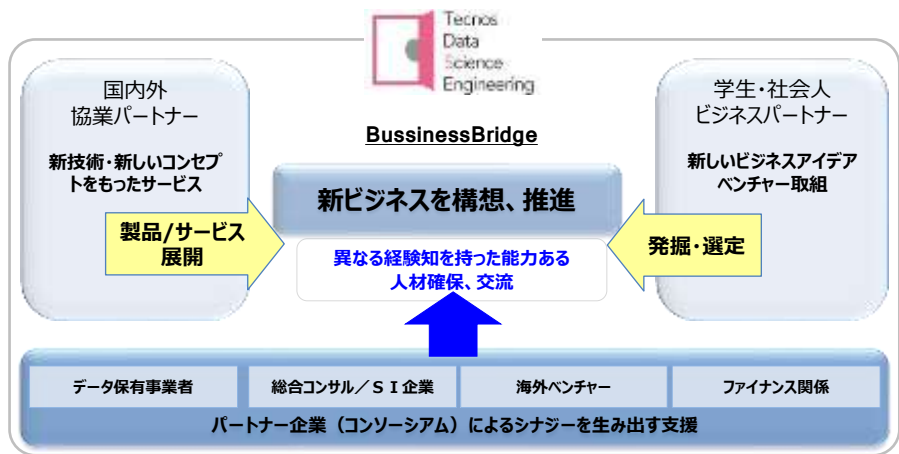
Page 41

41

A I ビジネスを牽引するハブ機能の役割

参考

- ▶ 『新技術・新しいコンセプトを持ったサービス』や、『新しいビジネスアイデア』を組み合わせること、『異なる経験知を持った能力ある人材確保、交流も含めた環境作り』を通じて、新ビジネスを構想、推進していくとなる。
- ▶ パートナー企業によるシナジーを生み出す支援をコンソーシアム機能を通じて創り出す。



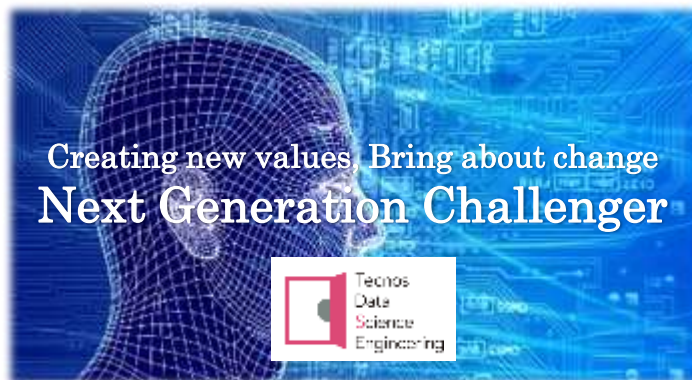
Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 42

42

投資家へメッセージ

43



ご清聴ありがとうございました

お問い合わせは、下記までお願いいたします。

テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 IR担当
〒163-1427 東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー27階
TEL (03) 6383-3261 (代表) FAX (03) 6383-3262
Mail investors@tdse.jp

44

Appendix

45

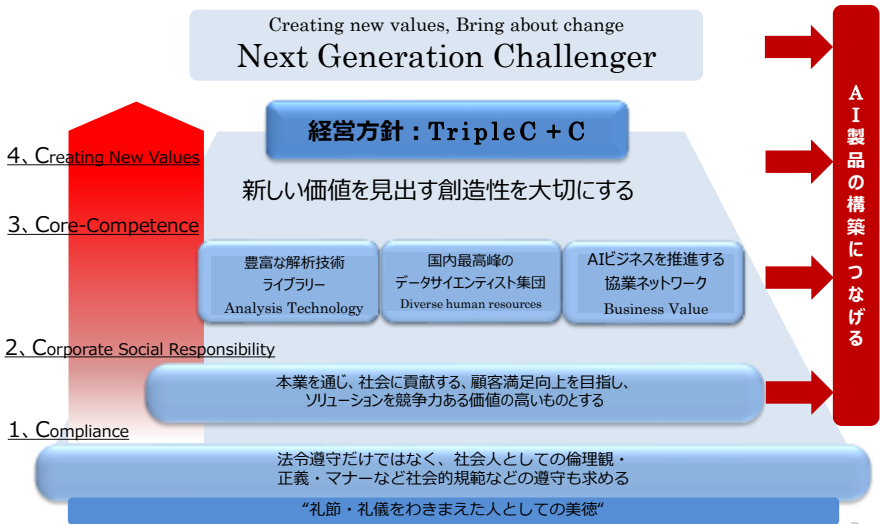
会社概要

会社名	テクノデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 (TDSE)	
代表者	代表取締役社長 城谷 直彦	
所在地	〒163-1427 東京都新宿区西新宿3-20-2 オペラシティタワー27階	
資本金	8億3318万円	
設立日	2013年10月17日	
上場情報	東京証券取引所マザーズ市場 (証券コード 7046)	
上場日	2018年12月18日	
事業	データ経営を目指す企業向けにデータ経営診断・データ解析・AI製品構築に至るまで高度なサービスを提供。	
役職員	127 名 (2019年4月1日現在) / 対前年114名	

46

経営方針【Triple C + C】

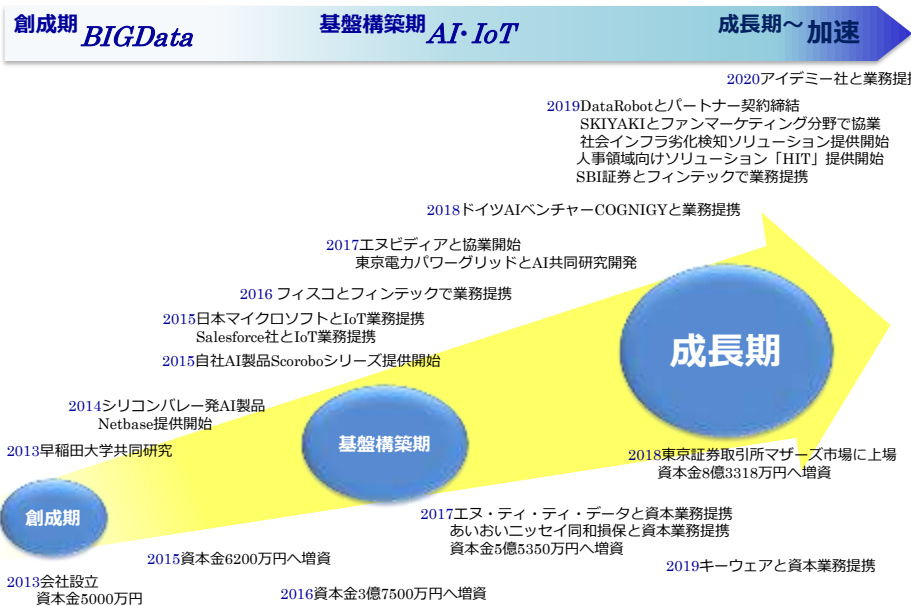
経営ビジョン達成にむけて企業の行動規範と当社強みを活かして
創造性を大事にする経営方針（TripleC + C）を定めている。



Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 47

ビジネス沿革



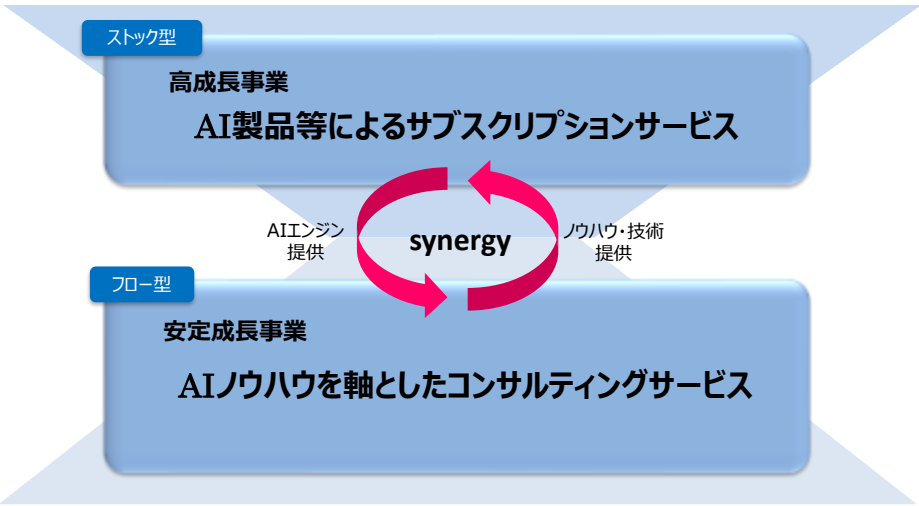
Page 48

2019年1月以降の当社関係ニュース

- 2020.05.13 株式会社アイデミーとAI人材育成分野で業務提携
- 2020.04.27 対話型AIプラットフォーム Cognigy を活用した医療機関向けオンライン問診用ボットを提供
- 2020.04.16 対話型AIプラットフォーム Cognigy を活用した採用会社案内ボットを無償提供
- 2020.01.16 SNS分析に関する新サービス『RealTimeMonitor by SNS_Analysis』提供開始
- 2019.10.25 TDSEとSBI証券によるフィンテック領域での業務提携、AI型投資サービス共同開発
- 2019.10.10 フィンテック領域強化にむけて、東京大学荻原准教授が金融テクニカルアドバイザーに就任
- 2019.09.04 NVIDIA最上位Elite Solution Provider認定GDEP連携 『Deep Learning講座』提供
- 2019.07.31 キーウェアソリューションズ株式会社の株式取得及び資本業務提携並びに資金の借入
- 2019.07.19 『scorobo for HR-Tech』を活用した 人事領域ソリューション『HIT』提供開始
- 2019.06.26 日本マイクロソフトとの協力体制強化 Microsoft Partner Network for Industry参画
- 2019.06.19 『scorobo for Infrastructure』を活用した社会インフラ向け劣化検知ソリューション提供
- 2019.05.30 早稲田大学の社会人教育事業 WASEDA NEOと連携『AIビジネス教育プログラム』の提供
- 2019.03.18 SKIYAKIによる提携第1弾、エンタメ業界初！「bitfan analysis」共同開発開始
- 2019.02.05 DataRobot, Inc.とパートナー契約を締結

事業全体像

- AI技術・ノウハウをコアバリューとするデータサイエンティストや、様々な業界・業務に精通した知識及びIT技術を保有するエンジニアをはじめとするプロフェッショナル集団であり、データ経営を目指す企業向けに高度なソリューションを提供している。



国内最高峰のデータサイエンティスト集団

➤ 海外先端技術研究所を経験したデータサイエンティストや専門的な科学教育を受けた人材が強い。



データ経営コンサルティングサービス
データサイエンティスト

合 計
83名

理系修士以上
79名

後期修了・博士
45名

デジタル戦略システム構築サービス
データエンジニア・ソリューションエンジニア

合 計
18名

理系修士以上
10名

後期修了・博士
2名

出身研究所例

欧州原子核研究機構（CERN） スイスジュネーヴ
フェルミ国立加速器研究所（FNAL） 米シカゴ
フランス国立科学研究センター（CNRS） 仏パリ
フランス国立宇宙研究センター（CNES） 仏パリ
理化学研究所
宇宙航空研究開発機構（JAXA）
東京大学宇宙線研究所

主な出身分野

素粒子物理学 地球科学 情報工学 複雑系 物性物理 物理工学 情報デザイン 理論化学 統計学 数理学 経済学 リモートセンシング バイオインフォマティクス 数理ファイナンスなど



2020年4月1日現在、役職員127名

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 51

技術ライブラリーScoroboxについて

➤ 創業時からのプロジェクト実績・技術・ノウハウの基礎情報を総計300件以上を蓄積。
➤ ライブラリーはプロジェクト運営の効率化およびAIモジュール化にむけ整備、活用。



- ・与信管理
- ・マーケティング関連
- ・市場予測
- ・設備保全
- ・人事業務
- ・顧客行動解析
- ・営業活動解析
- ・消耗品予測
- ・需要予測
- ・業務効率化
- ・店舗分析
- ・生産管理精度向上
- ・バイタル解析
- ・生産精度向上
- ・ネットワーク状態管理
- ・危険運転予測

など幅広い用途でのノウハウが知見として蓄積。

SCOROBOT活用目的

蓄積された情報を活用し
プロジェクト運営を効率化

コンサルティング・サービス
(フロー型)

システム機能の一部として
モジュール適用

scorobot +モジュール

サブスクリプション・サービス
(ストック型)

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 52

Scoroboブランドを活用したサブスクリプションサービス

- ディープラーニング技術等の機械学習を活用したAI製品とモジュール群を当社独自AIブランド「scorobo」として幅広い領域で提供。



現在提供中の製品は、デジタルマーケティング領域で提供している**scorobo for Marketing**、**scorobo for SNS**、株価予想や経済指標予測を行う**scorobo for Fintech**が挙げられる。豊富に蓄積されたライブラリーをもとにして、需要予測、顧客の行動分析、製造業における故障検知、人事業務における離職予想等、AIモジュール充実を図っている。

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 53

53

海外のAI製品を活用したサブスクリプションサービス

- 海外先進技術を用いたAI製品を活用し、サブスクリプションサービスを提供中。
- Twitter等SNS分析を目的としたAI製品Netbase（米）、ChatBotや音声アシスタント等の対話サービスに対して、自動応答機能を提供するAI製品Cognigy（独）のアジアンパシフィック展開を実施中。



※ COGNIGYの機能として、LINE・Facebook・Slack・WhatsApp・Twilioなど現在14種類のアプリケーションとの連携も可能です。AlexaやGoogleの音声合成言語にも対応。日本語・英語・ドイツ語などの15ヶ国語に対応しております。

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 54

54

大株主構成（2020年3月31日現在）

株主名	株式数	占率
1 株式会社テクノスジャパン	380,000	(17.3%)
2 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	160,000	(7.3%)
2 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	160,000	(7.3%)
2 城谷 直彦	160,000	(7.3%)
5 テクノデータサイエンス・エンジニアリング株式会社	150,000	(6.8%) ※
6 城谷 紀子	80,000	(3.6%)
7 バンク オブ ニューヨーク GCM CLIENT ACC	75,631	(3.4%)
8 奥出 聡	66,000	(3.0%)
9 白井 孝秀	60,000	(2.7%)
10 野池 清文	48,500	(2.2%)
上位10位の株主合計	1,340,131	(60.9%)
※なお、5位については自社保有株式であり、議決権保有はしていない。		
上位20位の株主合計	1,593,940	(72.3%)

55

株式情報（2020年3月31日現在）

発行可能株式総数	8,000,000株
発行済株式総数	2,200,000株
株主数	1,867名

所有者別状況			
	株主数	所有株式数（単位）	割合（%）
個人・その他	1,802	11,141	50.6
その他国内法人	21	5,498	25.0
金融機関（銀行・信託・保険）	5	1,995	9.1
証券会社	23	541	2.5
自己名義株式	1	1,500	6.8
外国法人等	15	1,325	6.0
発行済株式数（単位）	1,867	22,000	

※単元株式数は100株

保有数分布状況			
	株主数	割合（%）	所有株式数（単位） 割合（%）
5 単元未満	1,553	83.2	2,166 9.8
5 単元以上 5 0 単元未満	279	14.9	2,893 13.1
5 0 単元以上 5 0 0 単元未満	26	1.4	4,025 18.3
5 0 0 単元以上 1 0 0 0 単元未満	4	0.2	2,816 12.8
1 0 0 0 単元以上	4	0.2	8,600 39.1
自己名義株式	1	0.0	1,500 6.8
発行済株式数（単位）	1,867	100	22,000

※単元株式数は100株

56

- 本資料にて開示されている当社に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、将来の数値・数額、事実の認識・評価などといった、将来に関する情報をはじめとする歴史的事実以外のすべての事実は、当社が本資料の発表日現在入手している情報に基づき、現時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎としているものであります。
- また、見通し、予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提を使用しています。
- これらの事実または前提については、その性質上変化することがあり、客観的に正確であるという保証も、また将来その通りに実現するという保証もありません。これらの事実または前提が、客観的には不正確であったり将来実現しないこととなりうるリスクや不確定要因は多数あります。
- 資料に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標であり、本目的にのみ使用するものとします。
- 従いまして、本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

お問い合わせは、下記までお願いいたします。

テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 I R担当
 〒163-1427 東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー27階
 TEL (03) 6383-3261 (代表) FAX (03) 6383-3262
 Mail investors@tdse.jp

Tecnos Data Science Engineering All Rights Reserved

Page 57

57



58